

法学部三十年をふりかえって

家 崎 宏

昭和三十一年、商学部商学科の一学部一学科の四年制大学として発足した中京大学は、今や八学部十三学科、大学院八研究科を擁する総合大学へと発展した。法学部は、三番目の学部として、文学部と共に昭和四十一年に開設されて本年をもって三十周年を迎える。人間にたとえれば、「三十にして立つ」言わば、ようやく自立のできる年を迎えたわけである。「十年一昔」という。竹は一定の間隔をおいて節を付けるからこそ、細くとも強靱である。大学にしろ企業にしろ、十年を区切りとして記念事業を行うのも、ひとつの節付けであり、次の節へと更に発展を期するところに意義がある。

法学部の開設は、昭和三十一年に誕生した中京大学にとっては、最初の節付けであった。昭和三十四年には体育学部が開設されているが、十年目の昭和四十一年に文学部三学科と共に法学部法律学科が開設された。四学部八学科の

総合大学となったのである。この体制はその後二十年間続くことになる。しかし、その間中京大学は、既設学部の大
学院設置に専念した。法学部にとっては最初の、大学にとっては二つ目の節にあたる昭和五十一年、大学院法学研究
科修士課程が設置された。四大学院研究科は、それぞれ完成年度には博士課程が増設され、法学研究科も昭和五十三
年には大学院法学研究科博士課程が誕生した。昭和六十一年、三つ目の節を迎えた中京大学は、二十年間の沈黙を破っ
て一気に学部増設を開始した。この年、法学部にとっては二つ目の節付け、つまり開設二十周年を迎えた。人間にた
とえば、成人式にも相当する。次々に増設される新学部にとって、既設学部の充実が必須の要件である。法学部は
その役目を充分果たしてきた。そして、ここに開設三十周年を迎えるに当たって、現在の法学部棟が、資料室をはじ
めとして、さらに教育・研究条件の充実する法学部棟として装いも新たに増改築されることになり、記念すべき節目
が付けられることとなった。

回顧すれば、今から四十年前、「中京大学が立派になる」ということそれ自体が自分自身が立派になるということだ
し、その中京大学を立派にするのは自分自身なんだよ」との恩師外岡茂十郎先生のお言葉を胸に、「八事」の地名を
「ヤゴト」と読めぬまま、チンチン電車（市電）に揺られながら「八事」までやってきた私は、停留所前のタバコ屋
で中京大学の所在を尋ね、石段を何段かのぼって、表札も新たな「中京大学」にたどりついたのであった。キャンパ
スは、いずれも木造二階建、工場を思わせる鋸屋根もあった。脱いだ靴を揃え、スリッパに履きかえ訪れたのが、つ
い昨日の様に想い出される。「時節流るるが如し」。それが今や、同じキャンパスに、地下一階地上九階建ての「中京
大学センタービル」を中心に、八事山興正寺の杜の緑を背景として、五学部五大学院研究科のための鉄筋コンクリー
ト建十四棟が所狭しと聳立する。それどころか、豊田キャンパスには三学部三大学院研究科のための鉄筋コンクリー
ト建十五棟が体育施設と共に建ち並ぶ。当時誰がこの姿を想像したであろう。いや、大学創立者梅村清明先生の胸中

には、すでに今日の姿があったに違いない。創立者の総合大学構想のなかには、大学開設時から「法学部」があった。武市春男教授を中心に、着々法学部要員が採用されていたからである。私もそのうちの一人に加えられた。十年の歳月は、法学部の誕生を夢みつつ、大学の開設間もなく、しかも他学部とて、決して充分とは言えない研究条件に甘んじ、「その日」のために一剣を磨きながら、敢えなく他界された方もいる。せつかく苦勞を共にしつつも、待望の法学部が誕生するや、間もなく思わぬ事情のために去った方もいる。法学部は今や新進気鋭の若手スタッフを揃え、他と比べて少しも遜色がないまでになっているが、学部、大学院修士課程、同博士課程の設置に際し、それぞれ中心教授となるべき方々のご協力、ご指導があったればこそその認可であり、開設である。学部では西山重和元九州大学教授、外岡茂十郎元早稲田大学教授、五十嵐豊作元名古屋大学教授、武市春男元東京都立短期大学長、大学院修士課程では柳瀬良幹元東北大学教授、大野實雄元早稲田大学教授、前原光雄元慶應義塾大学教授、博士課程では右柳瀬・大野両教授の他に高田源清元九州大学教授である。いずれもすでに故人となられた。開設三十周年を迎えるに当たり、あらためて感謝申し上げると同時に、心よりご冥福をお祈りする次第である。

大学は校舎が立派に整備され、教授陣が充実し、優秀な学生が多数在学しているというように、その形式が整うことも大学の在るべきひとつの条件であるに違いないが、大学は教育の場であり、研究の場であることを考えれば、優れた人材の育成と学術文化の創造と普及に努め、さらなる飛躍を期して、来たるべき「不惑の四十」という節目を迎えたいものである。